

# 砂と暮らし 砂に学ぶ

ITP  
だより

25



10月末、学生3人を引率してシリアへ出発する直前の鳥取駅にて。右端が著者、真ん中3人がこれから海外に長期滞在する学生。左端は見送りに来た派遣学生の指導教員

9月末に、チュニジア、シリア、中国に滞在していたITP第一期生5人の学生が現地での研究を終えて無事に帰国し、10月末に新たな学生3人がアレツポ(シリア)に向けて日本を旅立ちました。ITP担当職員である私の役割は、学生を現地まで安全に送り届

活、英語での授業が始まりました。若干の戸惑いを見せながらも、学生たちは目を輝かせ、異国での新しい生活を始めます。ほっておいても彼らは遅しく育っていくのでしよう。しかし彼らのため、そして日本で応援・心配する彼らの周りの方たちのため

## 遠くから見守る

### 私たち

け、スムーズに海外生活のスタートが切れるようにサポートすることです。

にも、関係教職員一丸となり、後方より学生たちをサポートし、この事業の発展を図っていきたいという思いをあらためて強くしました。

シリア到着後、早速現地で携帯電話を購入し、ご両親に元気な声を聞かせる学生たち。そしてすぐに、さまざま

な国から集まった多国籍の学生たちとゲストハウスでの共同生

活、英語での授業が始まりました。若干の戸惑いを見せながらも、学生たちは目を輝かせ、異国での新しい生活を始めます。ほっておいても彼らは遅しく育っていくのでしよう。しかし彼らのため、そして日本で応援・心配する彼らの周りの方たちのため

まな国から集まった多国籍の学生たちとゲストハウスでの共同生

(水曜日に掲載)

(鳥取大学研究・国際協力部職員 大塚卓弥)